川越市障害者支援計画アンケート調査報告書

《概要版》

平成 26 年 3 月

川　越　市

（この報告書《概要版》における調査結果の見方）

○ 調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数は TOTAL 及び n で示している。

○ 回答率(%)については、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも 100%とはならない場合がある。

○ 回答には、単一回答（○は１つ）と複数回答（○はいくつでも）の 2 種類がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計は 100%を超える場合がある。

○ 図表の問のタイトル及び、回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。正式な問のタイトル及び、回答の選択肢は、調査票を参照されたい。

Ⅰ　調査概要

調査目的

障害者支援計画（第３次障害者計画・第３期障害福祉計画）の見直しを行い、次期計画を策定するにあたり、障害者の生活上の課題・住民ニーズを明らかにするため市民意識調査を行い、その分析データを活用する。

調査対象

対象者	抽出方法
身体障害者調査	身体障害者手帳所持者から 1,500 人を無作為抽出
知的障害者調査	みどりの手帳（療育手帳）所持者から 400 人を無作為抽出
精神障害者調査	精神障害者保健福祉手帳所持者から 400 人を無作為抽出
難病患者調査	特定疾患医療給付制度利用者から 350 人を無作為抽出
高次脳機能障害者調査	精神障害者保健福祉手帳所持者から 9 人を抽出
発達障害者調査	精神障害者保健福祉手帳所持者から 25 人を抽出
施設入所者調査	施設入所者全員 261 人
特別支援学校高等部３年生調査	特別支援学校高等部３年生全員 71 人
グループホーム・ケアホーム入居者調査	グループホーム・ケアホーム入居者全員 122 人

調査時期

平成 25 年９月～12 月

調査方法

身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、高次脳機能障害者、発達障害者については、郵送配布・郵送回収により調査を実施した。施設入所者、特別支援学校高等部３年生、グループホーム・ケアホーム入居者については、学校及び各施設等を通じて配布・回収を行った。

回収状況

調査区分	対象者数	有効回収数	有効回収率
身体障害者調査	1,500	920	61.3%
知的障害者調査	400	231	57.8%
精神障害者調査	400	228	57.0%
難病患者調査	350	212	60.6%
高次脳機能障害者調査	9	1	11.1%
発達障害者調査	25	11	44.0%
施設入所者調査	261	248	95.0%
特別支援学校高等部３年生調査	71	51	71.8%
グループホーム・ケアホーム入居者調査	122	118	96.7%

Ⅱ　調査結果

1　回答者の年齢

平均年齢は、**身体障害者** 67.9 歳、**知的障害者** 30.9 歳、**精神障害者** 45.6 歳、**難病患者** 60.6 歳、**施設入所者** 44.6 歳、**グループホーム・ケアホーム利用者** 43.8 歳である。

《 回答者の年齢 》

	n	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
身体障害者	920	1.1%	1.6%	1.5%	2.2%	4.9%	8.2%	25.2%	32.6%	22.0%	0.8%
知的障害者	231	8.2%	19.9%	20.8%	22.5%	14.7%	4.8%	3.9%	2.2%	0.9%	2.2%
精神障害者	228	0.4%	3.9%	8.3%	20.6%	28.1%	18.9%	11.8%	5.3%	1.3%	1.3%
難病患者	212	－	－	0.9%	13.2%	10.8%	12.3%	28.3%	29.2%	4.2%	0.9%
施設入所者	248	－	0.4%	6.0%	31.9%	33.1%	12.9%	8.9%	4.8%	0.4%	1.6%
グループホーム・ケアホーム利用者	118	－	－	16.1%	18.6%	30.5%	27.1%	5.9%	0.8%	－	0.8%

2　介助・援助の状況

身体障害者では、「特に介助・援助は受けていない」と回答した人は約４割（38.8%）で、約６割の人はふだん何らかの介助・援助を受けていることがわかる。主な介助・援助者は、「配偶者」が 25.5%と最も多い。

知的障害者では、「特に介助・援助は受けていない」と回答した人は 8.7%で、約９割の人はふだん何らかの介助・援助を受けていることがわかる。主な介助・援助者は、「親」が 71.4%である。

精神障害者では、「特に介助・援助は受けていない」と回答した人は 28.9%で、約７割の人はふだん何らかの介助・援助を受けていることがわかる。主な介助・援助者は、「親」が 35.1%と最も多い。

難病患者では、「特に介助・援助は受けていない」と回答した人は約６割（61.3%）で、約４割の人はふだん何らかの介助・援助を受けていることがわかる。主な介助・援助者は、「配偶者」が 25.0%と最も多い。

《 主な介助・援助者 》

	n	特に介助・援助は受けていない	親	配偶者	子ども	子どもの配偶者	兄弟姉妹	その他の親せき	近隣の人、知人・友人	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
身体障害者	920	38.8%	5.7%	25.5%	10.7%	1.6%	1.3%	0.4%	0.4%	4.7%	－	5.2%	5.7%
知的障害者	231	8.7%	71.4%	－	－	－	3.5%	0.4%	－	1.3%	－	10.8%	3.9%
精神障害者	228	28.9%	35.1%	10.5%	2.6%	－	4.8%	0.4%	0.9%	4.4%	0.4%	6.6%	5.3%
難病患者	212	61.3%	2.4%	25.0%	2.4%	－	－	－	－	1.4%	－	0.9%	6.6%

3　実際に介助・援助を受けている場面

実際に介助・援助を受けている場面としては、**身体障害者**では、「外出をするとき」が 63.8%と最も多く、次いで「簡単な買物をするとき」（46.0%）、「洗濯（干し、取り込みも含む）をするとき」（45.6%）と続いている。

知的障害者では、「お金の管理をするとき」が 70.8%と最も多く、次いで「外出をするとき」（68.8%）、「食事をつくるとき」（51.5%）、「簡単な買物をするとき」（49.0%）、「人とコミュニケーションをとるとき」（48.5%）と続いている。

精神障害者では、「食事をつくるとき」が 49.3%と最も多く、次いで「通院のとき」（46.0%）、「掃除をするとき」（43.3%）、「お金の管理をするとき」（42.0%）と続いている。

難病患者では、「外出をするとき」をあげる人が 76.5%と最も多く、次いで「洗濯（干し、取り込みも含む）をするとき」（57.4%）、「食事をつくるとき」（54.4%）と続いている。

特別支援学校高等部３年生では、「買い物に出かけるとき」が 66.7%と最も多く、次いで「遊びに出かけるとき」（61.9%）、「学校に行くとき、帰ってくるとき」（47.6%）と続いている。

グループホーム・ケアホーム利用者では、「家事（調理、掃除、洗濯）」が 83.2%と最も多く、次いで「外出をするとき」（63.7%）、「入浴をするとき」（47.8%）と続いている。

《 介助・援助を受けている場面（複数回答）：上位５項目》

	n	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	511	外出をするとき 63.8%	簡単な買物をするとき 46.0%	洗濯(干し、取り込みも含む)をするとき 45.6%	食事をつくるとき 41.5%	入浴をするとき 39.3%
知的障害者	202	お金の管理をするとき 70.8%	外出をするとき 68.8%	食事をつくるとき 51.5%	簡単な買物をするとき 49.0%	人とコミュニケーションをとるとき 48.5%
精神障害者	150	食事をつくるとき 49.3%	通院のとき 46.0%	掃除をするとき 43.3%	お金の管理をするとき 42.0%	※2 項目が同率のため掲載を省略
難病患者	68	外出をするとき 76.5%	洗濯(干し、取り込みも含む)をするとき 57.4%	食事をつくるとき 54.4%	簡単な買物をするとき 51.5%	入浴をするとき 42.6%
特別支援学校高等部３年生	21	買い物に出かけるとき 66.7%	遊びに出かけるとき 61.9%	学校に行くとき、帰ってくるとき 47.6%	トイレのとき 33.3%	おふろに入るとき 33.3%
グループホーム・ケアホーム利用者	113	家事（調理、掃除、洗濯） 83.2%	外出をするとき 63.7%	入浴をするとき 47.8%	食事をするとき 45.1%	トイレのとき 32.7%

4　外出の際に困っていること

外出の際に困っていることとしては、**身体障害者**では、「道路や建物・駅に階段や段差が多い」をあげる人が37.2%と最も多い。

知的障害者では、「障害者用トイレが少ない」と「道路や建物・駅に階段や段差が多い」がそれぞれ 21.6%の人にあげられている。

精神障害者では、「他人の視線が気になる」ことをあげる人が 28.1%と最も多く、次いで「他人との会話が難しい」が 22.8%で続いている。

難病患者では、「道路や建物・駅に階段や段差が多い」が 23.1%と最も多く、次いで「バスや電車の乗り降りが困難」が 17.5%で続いている。

施設入所者では、約４割の人が「外出の機会が少ない」（41.9%）ことをあげているが、外出の際では「まわりの人の手助け・配慮が足りない」が 39.1%と最も多く、次いで「駅構内の移動・乗り換え」が 32.7%で続いている。

《 外出の際に困っていること（複数回答）：上位５項目》

	n	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	920	道路や建物・駅に階段や段差が多い 37.2%	バスや電車の乗り降りが困難 21.6%	障害者用トイレが少ない 18.8%	障害者用の駐車スペースが少ない 18.8%	歩道が整備されていない 17.4%
知的障害者	231	障害者用トイレが少ない 21.6%	道路や建物・駅に階段や段差が多い 21.6%	バスや電車の乗り降りが困難 16.5%	歩道が整備されていない 15.2%	通路上に自転車や看板などの障害物があって通りにくい 14.3%
精神障害者	228	他人の視線が気になる 28.1%	他人との会話が難しい 22.8%	付き添ってくれる人がいない 12.7%	必要なときに、まわりの人の手助け・配慮が足りない 12.3%	―
難病患者	212	道路や建物・駅に階段や段差が多い 23.1%	バスや電車の乗り降りが困難 17.5%	歩道が整備されていない 11.3%	障害者用の駐車スペースが少ない 10.8%	障害者用トイレが少ない 9.9%
施設入所者	248	外出の機会が少ない 41.9%	まわりの人の手助け・配慮が足りない 39.1%	駅構内の移動・乗り換え 32.7%	トイレの利用 27.8%	歩道・道路の段差 25.4%

5　健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

健康管理や医療について困ったり不便に思うこととしては、**身体障害者**では、42.6%の人が「特にない」と回答しているが、１割以上の人があげている項目には、「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」（13.8%）、「医療費の負担が大きい」（11.4%）の２項目がある。

知的障害者では、36.4%の人が「特にない」と回答しているが、「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」（25.1%）や「症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」（20.3%）の２項目は２割以上の人にあげられている。

精神障害者では、32.5%の人が「特にない」と回答しているが、４人に１人は「医療費の負担が大きい」（25.9%）ととらえていることがわかる。

難病患者では、約４割の人が「特にない」（40.1%）と回答しているが、約４人に１人は「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」（24.5%）、約５人に１人は「医療費の負担が大きい」（19.3%）と感じている。

《 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと（複数回答）：上位５項目》

	n	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	920	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない 13.8%	医療費の負担が大きい 11.4%	気軽に往診を頼める医師がいない 9.1%	近所に診てくれる医師がいない 7.3%	建物が障害のある人に配慮した構造になっていない 5.7%
知的障害者	231	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない 25.1%	症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない 20.2%	医師、看護師等の障害に対する理解が不十分 16.5%	気軽に往診を頼める医師がいない 16.0%	近所に診てくれる医師がいない 13.4%
精神障害者	228	医療費の負担が大きい 25.9%	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない 18.0%	近所に診てくれる医師がいない 10.1%	医師、看護師等の障害に対する理解が不十分 10.1%	受診手続きや案内など、障害のある人への配慮が不十分 10.1%
難病患者	212	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない 24.5%	医療費の負担が大きい 19.3%	近所に診てくれる医師がいない 9.9%	気軽に往診を頼める医師がいない 6.1%	※2項目が同率のため掲載を省略

6　今後行いたい生涯学習活動・余暇活動

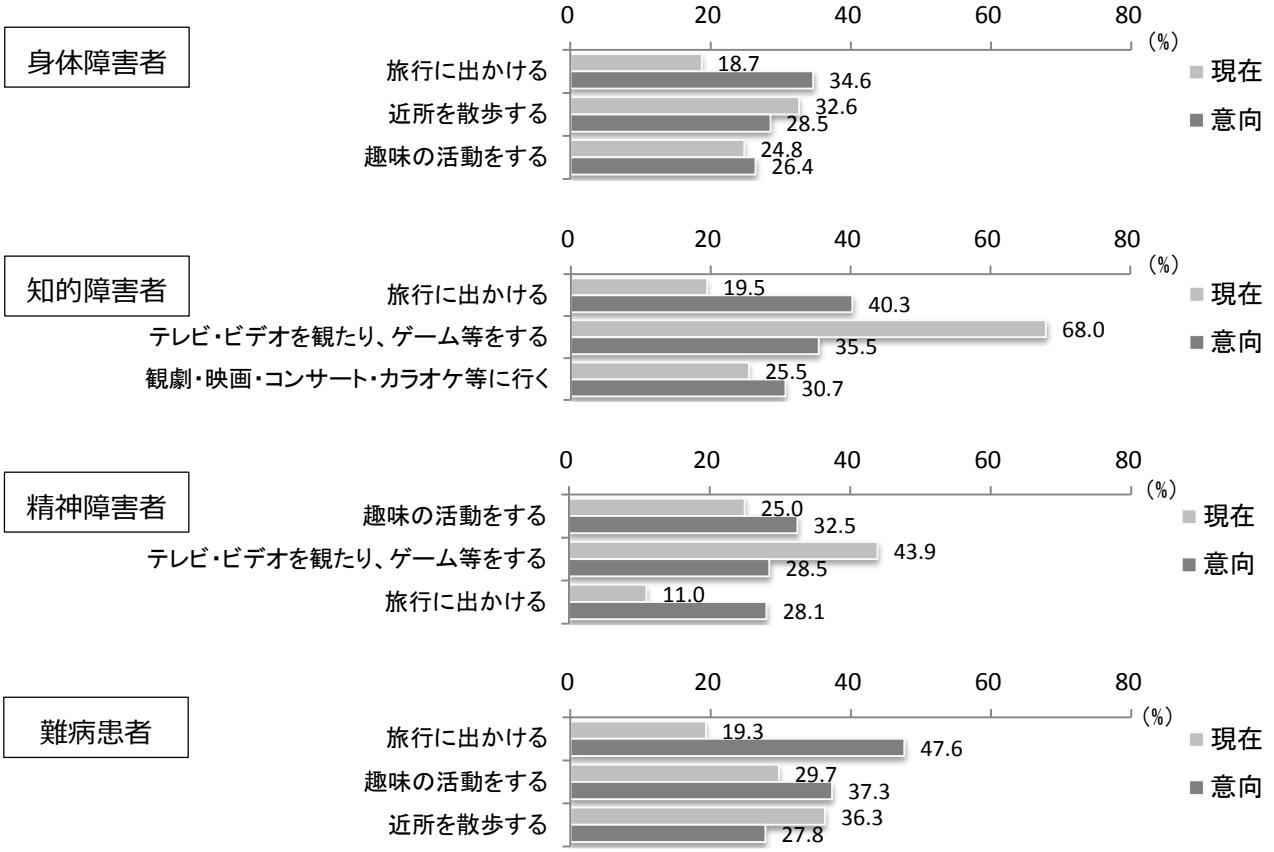
今後行いたい生涯学習活動・余暇活動としては、**身体障害者**、**知的障害者**、**難病患者**では「旅行に出かける」が最も多くあげられ、**精神障害者**では「趣味の活動をする」が最も多くあげられている。

なお、実際の活動状況と今後の活動意向を比べてみると、**身体障害者**の「旅行」は、意向が 34.6%であるのに対し、実際に出かけている人は 18.7%にとどまっており、「旅行に出かけたいが、実際には出かけられていない」人が多くいる状況がうかがえる。同様に、**知的障害者**の「旅行」は、意向が 40.3%であるのに対し、実際に出かけている人は 19.5%にとどまっている。

《 今後行いたい生涯学習活動・余暇活動（複数回答）：上位５項目》

	n	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	920	旅行に出かける 34.6%	近所を散歩する 28.5%	趣味の活動をする 26.4%	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする 23.4%	友人・知人と会って交流を深める 23.2%
知的障害者	231	旅行に出かける 40.3%	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする 35.5%	観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く 30.7%	デパートや店等を見て歩く 26.4%	※2 項目が同率のため掲載を省略
精神障害者	228	趣味の活動をする 32.5%	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする 28.5%	旅行に出かける 28.1%	近所を散歩する 25.9%	友人・知人と会って交流を深める 25.4%
難病患者	212	旅行に出かける 47.6%	趣味の活動をする 37.3%	近所を散歩する 27.8%	友人・知人と会って交流を深める 25.5%	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする 21.7%

《 実際の活動状況と今後の意向の比較（意向の上位３項目）》



7　希望する活動を行うために必要な条件

希望する活動を行うための条件としては、**身体障害者**、**精神障害者**、**難病患者**では「一緒に行く仲間がいること」が最も多くあげられ、**知的障害者**では「介助者・援助者がいること」が最も多くあげられている。

《 希望する活動を行うために必要な条件（複数回答）：上位５項目》

	n	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	920	一緒に行く仲間がいること 28.5%	活動する場所が近くにあること 27.9%	障害のある人に配慮した施設や設備があること 24.9%	外出のための手段が確保されていること 22.2%	介助者・援助者がいること 19.7%
知的障害者	231	介助者・援助者がいること 56.3%	一緒に行く仲間がいること 46.3%	障害のある人に配慮した施設や設備があること 44.6%	活動する場所が近くにあること 41.6%	外出のための手段が確保されていること 39.4%
精神障害者	228	一緒に行く仲間がいること 31.1%	活動する場所が近くにあること 31.1%	外出のための手段が確保されていること 23.2%	魅力的な内容であること 21.9%	障害のある人に配慮した施設や設備があること 20.2%
難病患者	212	一緒に行く仲間がいること 34.4%	活動する場所が近くにあること 30.2%	外出のための手段が確保されていること 23.1%	障害のある人に配慮した施設や設備があること 20.8%	魅力的な内容であること 20.3%

8　就労状況・就労意向

収入を伴う仕事をしている人の18～64歳の割合は、**身体障害者**41.2%、**知的障害者**64.3%、**精神障害者**22.6%、**難病患者**48.6%、**施設入所者**39.9%、**グループホーム・ケアホーム利用者**89.6%である。

なお、仕事の形態としては、**知的障害者**では58.4%が「就労継続支援等での福祉的就労」である。

また、現在、収入を伴う仕事をしていない人のうち、**身体障害者**では 35.2%、**知的障害者**では 28.3%、**精神障害者**では49.6%が、働きたいと考えている。

《 収入を伴う仕事の有無 》

	n	収入を伴う仕事をしている	収入を伴う仕事をしていない	無回答
身体障害者	260	41.2%	54.6%	4.2%
知的障害者	157	64.3%	29.3%	6.4%
精神障害者	195	22.6%	70.3%	7.2%
難病患者	105	48.6%	50.5%	1.0%
施設入所者	223	39.9%	57.4%	2.7%
グループホーム・ケアホーム利用者	115	89.6%	8.7%	1.7%

《 仕事の形態 》

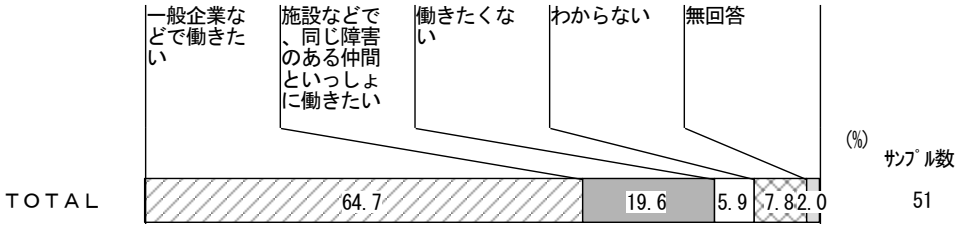
	n	会社員・公務員・団体職員	臨時・パート・日雇い	自営業	自営業の手伝い	家庭内職	就労継続支援等での福祉的就労	その他	無回答
身体障害者	107	50.5%	20.6%	13.1%	3.7%	0.9%	10.3%	0.9%	－
知的障害者	101	12.9%	22.8%	－	－	1.0%	58.4%	4.0%	1.0%
精神障害者	44	20.5%	31.8%	2.3%	2.3%	4.5%	36.4%	2.3%	－
難病患者	51	52.9%	29.4%	7.8%	7.8%	2.0%	－	－	－
施設入所者	89	－	－	－	－	－	96.6%	1.1%	2.2%
グループホーム・ケアホーム利用者	103	9.7%	8.7%	－	1.0%	－	72.8%	1.0%	6.8%

《就労意向》

	n	働きたい	働きたくない	わからない	無回答
身体障害者	142	35.2%	18.3%	31.0%	15.5%
知的障害者	46	28.3%	4.3%	50.0%	17.4%
精神障害者	137	49.6%	5.8%	36.5%	8.0%
難病患者	53	50.9%	13.2%	28.3%	7.5%

《 特別支援学校高等部生徒の就労意向 》

将来、様々な条件・支援が整った場合を想定して、「一般企業などで働きたい」と回答した生徒は 64.7%、「施設などで、同じ障害のある仲間といっしょに働きたい」と回答した生徒は 19.6%で、「働きたくない」と考えている生徒は5.9%にとどまっている。



9　生活を支える収入

生活を支えている収入としては、**身体障害者**では、77.8%の人が「年金、障害者年金、生活保護」などをあげている。なお、年代別にみると、18～64 歳では、32.3%の人が「給与・賃金」をあげている。

知的障害者では、「年金、障害者年金、生活保護」が 56.3%と最も多く、次いで「家族からの仕送り・援助」が 40.7%で続いている。なお、年代別にみると、18～64 歳では、約７割の人が「年金、障害者年金、生活保護など」（70.1%）をあげ、「家族からの仕送り・援助」は 36.3%、「給与・賃金」は 28.0%、「授産所や作業所の工賃」が 26.1%となっている。

精神障害者では、65.8%の人が「年金、障害者年金、生活保護など」をあげている。また、37.3%の人は「家族からの仕送り・援助」を受けている。

難病患者では、約６割の人が「年金、障害者年金、生活保護など」（61.8%）をあげている。なお、年代別にみると、18～64 歳では、「給与・賃金」が 48.6%と最も多く、次いで「年金、障害者年金、生活保護など」（27.6%）、「家族からの仕送り・援助」（24.8%）と続いている。

《 生活を支える収入（複数回答）》

		給与・賃金	事業収入	授産所や作業所の工賃	家族からの仕送り・援助	年金、障害者年金、生活保護など	その他	無回答
身体障害者	n							
TOTAL	920	12.4%	4.0%	0.4%	12.4%	77.8%	7.0%	5.1%
18歳未満	21	9.5%	－	－	52.4%	9.5%	23.8%	9.5%
18～64歳	260	32.3%	4.2%	1.5%	15.4%	60.0%	14.6%	3.1%
65歳以上	632	4.4%	4.0%	－	10.0%	87.5%	3.3%	5.5%
知的障害者	n							
TOTAL	231	22.9%	0.4%	18.6%	40.7%	56.3%	5.6%	6.5%
18歳未満	57	12.3%	1.8%	－	61.4%	7.0%	15.8%	15.8%
18～64歳	157	28.0%	－	26.1%	36.3%	70.1%	1.9%	3.2%
65歳以上	12	－	－	－	－	91.7%	8.3%	8.3%
精神障害者	n							
TOTAL	228	13.2%	1.8%	3.1%	37.3%	65.8%	8.3%	4.8%
18歳未満	7	－	－	－	71.4%	14.3%	－	14.3%
18～64歳	195	15.4%	1.5%	3.6%	38.5%	65.1%	9.2%	4.1%
65歳以上	23	－	4.3%	－	17.4%	82.6%	4.3%	8.7%
難病患者	n							
TOTAL	212	26.9%	1.9%	－	14.2%	61.8%	8.0%	3.3%
18～64歳	105	48.6%	1.9%	－	24.8%	27.6%	13.3%	5.7%
65歳以上	105	5.7%	1.9%	－	3.8%	95.2%	2.9%	1.0%

※ 年齢無回答は省略

10 相談状況・相談意向

悩みや困ったことなどの相談先としては、**身体障害者**、**知的障害者**、**精神障害者**、**難病患者**のいずれもが、「家族等の同居人」をあげる人が最も多い。

《 現在の相談先（複数回答）：上位５項目 》

	n	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	920	家族等の同居人 65.9%	友人・知人・近所の人 18.9%	病院・医師・看護師等 15.4%	親せき 14.6%	市役所の担当窓口 8.9%
知的障害者	231	家族等の同居人 65.8%	施設や作業所の職員 30.3%	職場や学校の人 14.7%	友人・知人・近所の人 13.4%	病院・医師・看護師等 10.8%
精神障害者	228	家族等の同居人 59.6%	病院・医師・看護師等 46.5%	友人・知人・近所の人 19.7%	施設や作業所の職員 10.5%	市役所の担当窓口 10.5%
難病患者	212	家族等の同居人 75.0%	友人・知人・近所の人 20.8%	病院・医師・看護師等 19.8%	親せき 17.0%	市役所の担当窓口 9.0%

家族や親せき以外で、希望する相談先や相談体制について自由記入方式で意見を求めたところ、以下のような記入があった。

《 希望する相談先や相談体制（自由記入）》

	自由記入内容
身体障害者	・ 相談が気楽にできる人や窓口があると嬉しい。 ・ 専門的な問題でもわかりやすく答えてくれる電話相談。 ・ 福祉の窓口に伺ったら相談者のデータが市役所＝共用できるシステムを希望します。あっちこっちの担当窓口にまわさないでほしい。
知的障害者	・ 同じような人をたくさん見てきた経験のある方に相談したい。個人情報が守られるようにしてもらいたい。また、同じ経験のある方との交流もできるようになるとよい。 ・ 市役所に出向いても窓口が混んでいてすぐに対応してもらえない。予約制で相談員が対応してくれるなど、定期的に相談しやすい窓口を作って欲しい。 ・ 24 時間いつでも相談にのってもらえる体制。
精神障害者	・ 自分の担当の人が決まっているとよい。決まっていないと何回も相談できない。 ・ メールで相談したい（返信要希望）。できれば携帯のメールだとありがたい。 ・ 高次脳機能障害を良く理解している人がいて、話を聞いてくれ、アドバイスして下さる方がいたら。
難病患者	・ 臨床心理士や精神保健福祉士等、（それぞれの分野で）ある程度専門的な知識を持った人に（継続的に）相談をしたい。 ・ （小児慢性疾患児）ピアカウンセリングの制度を県では作ったが、中核市である川越市は対象外となっている。県並みの制度を整えるか、県の制度に相のりする様にしてほしい。 ・ 病院・市役所の担当者より、受けられるサービスを細かく教えてほしい。
発達障害者	・ 職場等に相談窓口を設けることを義務付けるべきである。 ・ 市役所などの窓口。予約なしでも、いつでも相談できる窓口がほしい。

11　情報入手・コミュニケーションで困ること

情報の入手やコミュニケーションで困ることは、**身体障害者**では 17.7%の人が「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」、12.7%の人が「複雑な文章表現がわかりにくい」ことをあげている。また、主な障害の種類別にみると、視覚障害では、「案内表示がわかりにくい」（17.3%）や「音声情報が少ない」（13.5%）ことで困っている人が１割以上いる。また、聴覚障害では、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」と感じている人が 35.6%、「文字情報が少ない」ことで困っている人が 22.0%いることがわかる。

知的障害者では、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」ことをあげる人が 48.9%と最も多く、次いで「複雑な文章表現がわかりにくい」（43.3%）、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」（42.0%）と続いている。

精神障害者では、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」ことをあげる人が 43.4%と最も多く、次いで「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」（36.0%）、「複雑な文章表現がわかりにくい」（27.2%）と続いている。

難病患者では、11.3%の人が「複雑な文章表現がわかりにくい」ことをあげている。

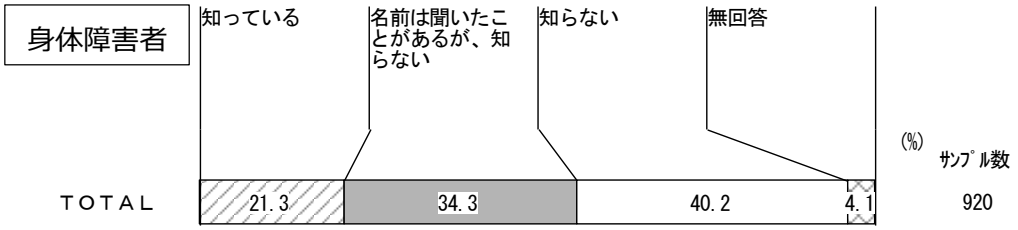
発達障害者では、11 人中 10 人が「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」ことで困っていると回答している。

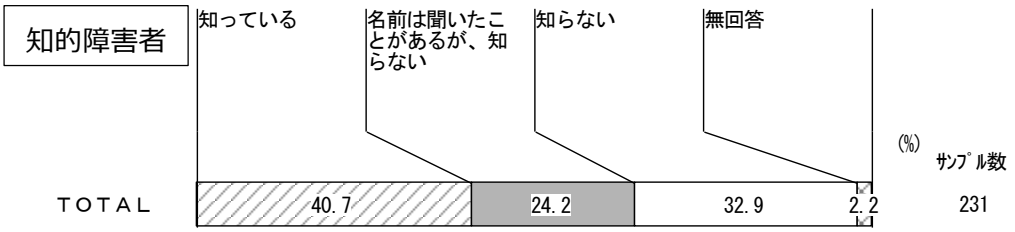
《 情報入手・コミュニケーションで困ること（複数回答）：上位５項目 》

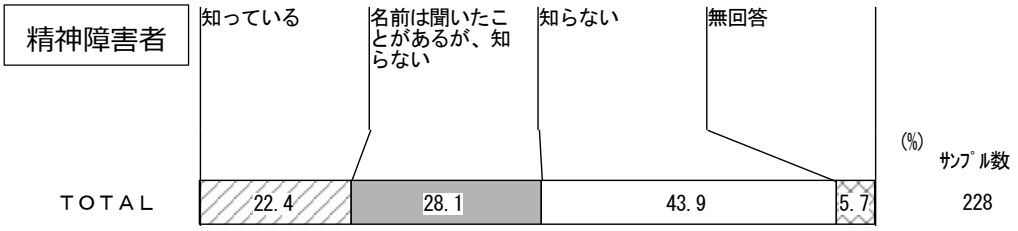
	n	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	920	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 17.7%	複雑な文章表現がわかりにくい 12.7%	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない 9.6%	案内表示がわかりにくい 8.7%	文字情報が少ない 4.6%
視覚障害	52	案内表示がわかりにくい 17.3%	音声情報が少ない 13.5%	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 7.7%	複雑な文章表現がわかりにくい 7.7%	文字情報が少ない 7.7%
聴覚障害	59	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 35.6%	文字情報が少ない 22.0%	複雑な文章表現がわかりにくい 16.9%	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない 13.6%	公共施設に手話通訳者がいない 13.6%
知的障害者	231	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない 48.9%	複雑な文章表現がわかりにくい 43.3%	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 42.0%	相手が介助者と話してしまう 10.8%	案内表示がわかりにくい 9.5%
精神障害者	228	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない 43.4%	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 36.0%	複雑な文章表現がわかりにくい 27.2%	案内表示がわかりにくい 11.8%	文字情報が少ない 6.6%
難病患者	212	複雑な文章表現がわかりにくい 11.3%	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 9.9%	案内表示がわかりにくい 9.0%	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない 6.1%	音声情報が少ない 3.8%
発達障害者	11	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない 90.9%	複雑な文章表現がわかりにくい 45.5%	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい 45.5%	（省略）	（省略）

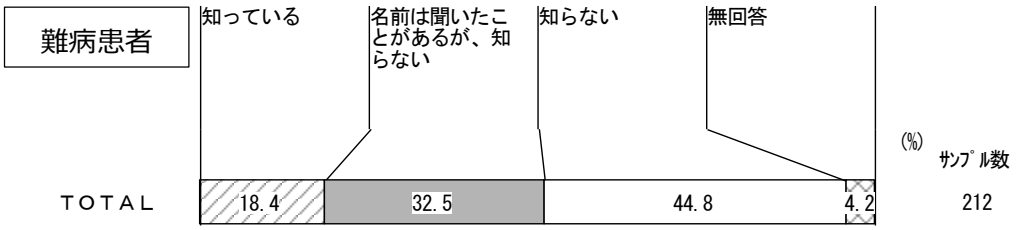
12 川越市障害者相談支援センターの認知状況

川越市障害者相談支援センターを「知っている」人の割合は、**身体障害者**では 21.3%、**知的障害者**では 40.7%、**精神障害者**では 22.4%、**難病患者**では 18.4%である。









13　福祉サービスの利用状況・利用意向

身体障害者では、利用したいと考えている人の割合が最も高いサービスは、「居宅介護（ホームヘルプサービス）」で、21.2%の人が利用したいサービスとしてあげている。

知的障害者では、利用したいと考えている人の割合が最も高いサービスは、「短期入所（ショートステイ）」で、31.6%の人が利用したいサービスとしてあげている。実際の利用経験の割合と利用意向（利用したいと考えている）の割合を比較してみると、両者の差が10ポイント以上あるのは、「行動援護」、「短期入所」、「自立訓練（生活訓練）」、「施設入所支援」、「共同生活介護（ケアホーム）」、「共同生活援助（グループホーム）」、「相談支援事業」、「コミュニケーション支援事業」、「移動支援事業」の９つのサービスである。これらのサービスは、実際に利用したことがある人よりも、今後利用したいと思っている人が特に多くなっていることから、潜在的なニーズが大きいと考えられる。

精神障害者では、利用したいと考えている人の割合が最も高いサービスは、「自立支援医療」で、54.8%の人が利用したいサービスとしてあげている。

難病患者では、「居宅介護（ホームヘルプサービス）」を利用したことがある人は 5.7%だが、利用したいと考えている人は 21.2%となっており、両者の差は 15.5%と大きい。

《 福祉サービスの利用状況・利用意向 》

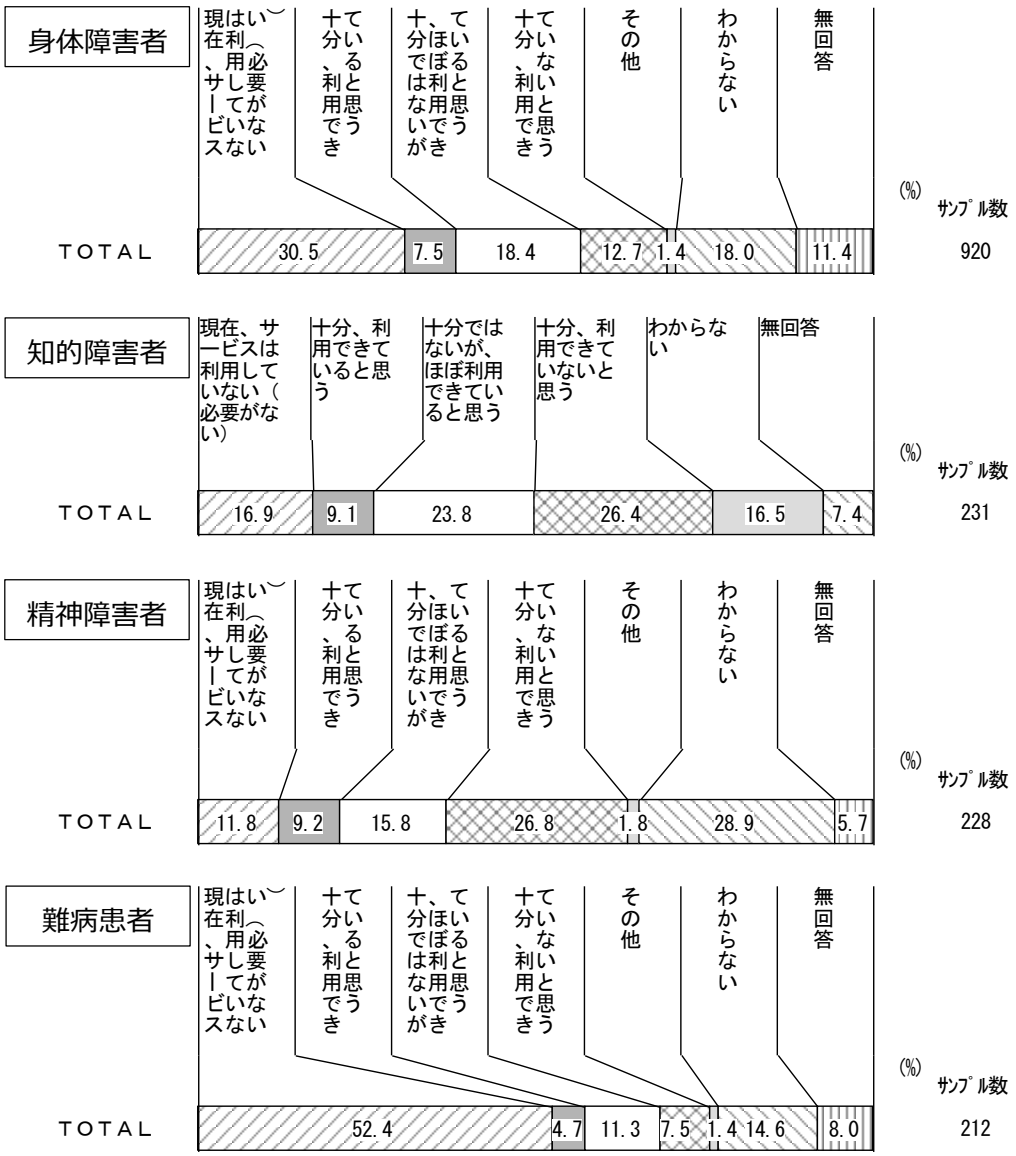
	身体障害者 n=920		知的障害者 n=231		精神障害者 n=228		難病患者 n=212	
	利用状況	利用意向	利用状況	利用意向	利用状況	利用意向	利用状況	利用意向
居宅介護（ホームヘルプサービス）	13.9%	21.2%	8.2%	13.4%	8.3%	14.5%	5.7%	21.2%
重度訪問介護	2.2%	6.4%	1.7%	3.5%	2.2%	3.5%	－	－
行動援護	2.7%	6.2%	10.0%	22.9%	1.8%	5.7%	－	－
短期入所（ショートステイ）	11.0%	15.4%	19.0%	31.6%	3.5%	4.8%	5.2%	16.0%
重度障害者等包括支援	1.7%	7.4%	1.7%	6.1%	1.3%	3.9%	－	－
療養介護	1.7%	5.8%	0.9%	3.5%	1.3%	4.8%	－	－
生活介護	4.1%	11.0%	12.1%	19.0%	4.8%	9.2%	－	－
自立訓練（機能訓練）	7.8%	9.7%	8.2%	13.4%	2.6%	6.6%	－	－
自立訓練（生活訓練）	3.6%	5.8%	5.6%	18.6%	4.8%	14.9%	－	－
就労移行支援	0.9%	1.7%	7.8%	11.7%	7.0%	11.4%	－	－
就労継続支援A型	0.3%	0.5%	3.0%	6.9%	0.9%	6.1%	－	－
就労継続支援B型	0.2%	0.5%	11.3%	15.2%	8.3%	10.5%	－	－
施設入所支援	3.9%	7.0%	10.8%	20.8%	3.9%	5.7%	－	－
共同生活介護（ケアホーム）	2.1%	5.2%	5.2%	16.0%	3.1%	3.9%	－	－
共同生活援助（グループホーム）	0.7%	4.1%	3.5%	18.2%	1.8%	7.5%	－	－
計画相談	3.3%	5.3%	4.3%	10.8%	2.2%	8.3%	－	－
地域相談	1.7%	5.1%	3.0%	10.0%	0.4%	8.8%	－	－
補装具費の支給	19.5%	20.9%	11.7%	9.1%	2.2%	1.8%	－	－
自立支援医療（更生・育成・精神通院）	3.2%	3.4%	8.2%	9.1%	60.1%	54.8%	－	－
相談支援事業	3.6%	8.9%	10.0%	21.6%	8.3%	18.0%	－	－
コミュニケーション支援事業	0.8%	3.5%	0.4%	11.7%	1.3%	11.8%	－	－
日常生活用具費の支給	9.0%	14.3%	8.2%	10.4%	2.6%	7.9%	10.4%	30.7%
移動支援事業	3.4%	7.2%	15.2%	26.8%	2.2%	7.5%	－	－
地域活動支援センター	3.3%	4.9%	3.0%	11.7%	11.0%	11.0%	－	－
日中一時支援事業	1.5%	6.3%	16.9%	26.0%	1.3%	4.8%	－	－

※ ( ) は、利用経験より利用意向が 10 ポイント以上高いサービス

14 福祉サービス利用についての充足度

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていないと思う」と回答した人の割合は、**身体障害者**では 12.7%、**知的障害者**では 26.4%、**精神障害者**では 26.8%、**難病患者**では 7.5%である。

必要なサービスを十分利用できていない理由は、いずれの障害でも「どのようなサービスがあるかわからないから」と「利用の仕方がわからないから」という情報不足による理由が上位を占めている。



《 必要なサービスを十分利用できていない理由（複数回答）》

	n	1位	2位	3位
身体障害者	117	どのようなサービスがあるかわからないから 52.1%	利用の仕方がわからないから 47.9%	自己負担が大きく、利用できないから 20.5%
知的障害者	61	どのようなサービスがあるかわからないから 44.3%	利用の仕方がわからないから 36.1%	自己負担が大きく、利用できないから 26.2%
精神障害者	61	利用の仕方がわからないから 65.6%	どのようなサービスがあるかわからないから 57.4%	自己負担が大きく、利用できないから 23.0%
難病患者	16	どのようなサービスがあるかわからないから 87.5%	利用の仕方がわからないから 25.0%	必要とするサービスがないから 12.5%

15 福祉サービスに関する情報の入手経路

福祉サービスに関する情報の入手経路としては、いずれの障害でも「市・県の広報」が最も多くあげられている。

《 福祉サービスに関する情報の入手経路（複数回答）：上位５項目 》

	n	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	920	市・県の広報 58.0%	市や県が発行する資料やパンフレット 18.0%	家族や仲間の話 15.9%	医療機関 15.3%	新聞や雑誌の福祉の関連記事 12.1%
知的障害者	231	市・県の広報 51.1%	家族や仲間の話 36.8%	障害者の施設や団体等の機関紙やパンフレット等 31.2%	市や県が発行する資料やパンフレット 19.0%	医療機関 7.8%
精神障害者	228	市・県の広報 43.4%	医療機関 26.8%	家族や仲間の話 18.4%	市や県が発行する資料やパンフレット 13.6%	障害者の施設や団体等の機関紙やパンフレット等 8.8%
難病患者	212	市・県の広報 69.3%	医療機関 26.9%	市や県が発行する資料やパンフレット 22.6%	家族や仲間の話 10.4%	新聞や雑誌の福祉の関連記事 9.9%

16 パソコン・スマートフォン・携帯電話の利用状況

身体障害者では、「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 17.5%、「スマートフォン等を利用して、情報を入手している」人は 6.3%で、半数以上の人は「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」（52.3%）と回答している。なお、年齢別にみると、18～64 歳では、36.2%が「パソコンを利用して、情報を入手している」が、65 歳以上では「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 9.3%にとどまっている。また、主な障害の種類別にみると、視覚障害では「パソコンを利用して、情報を入手している」人の割合が 25.0%と他の障害に比べて高い。また、聴覚障害では、「スマートフォン等を利用して、情報を入手している」（11.9%）人、「電子メールを利用して、友人などから情報を入手している」（10.2%）人がそれぞれ約 1 割いることがわかる。

知的障害者では、63.2%の人は「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」と回答している。

精神障害者では、「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 28.1%、「スマートフォン等を利用して、情報を入手している」人は 14.5%、「携帯電話を利用して、情報を入手している」人は 11.4%で、約 4 割の人は「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」（42.5%）と回答している。

難病患者では、「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 28.3%、「スマートフォン等を利用して、情報を入手している」人は 10.8%で、45.3%の人は「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」と回答している。

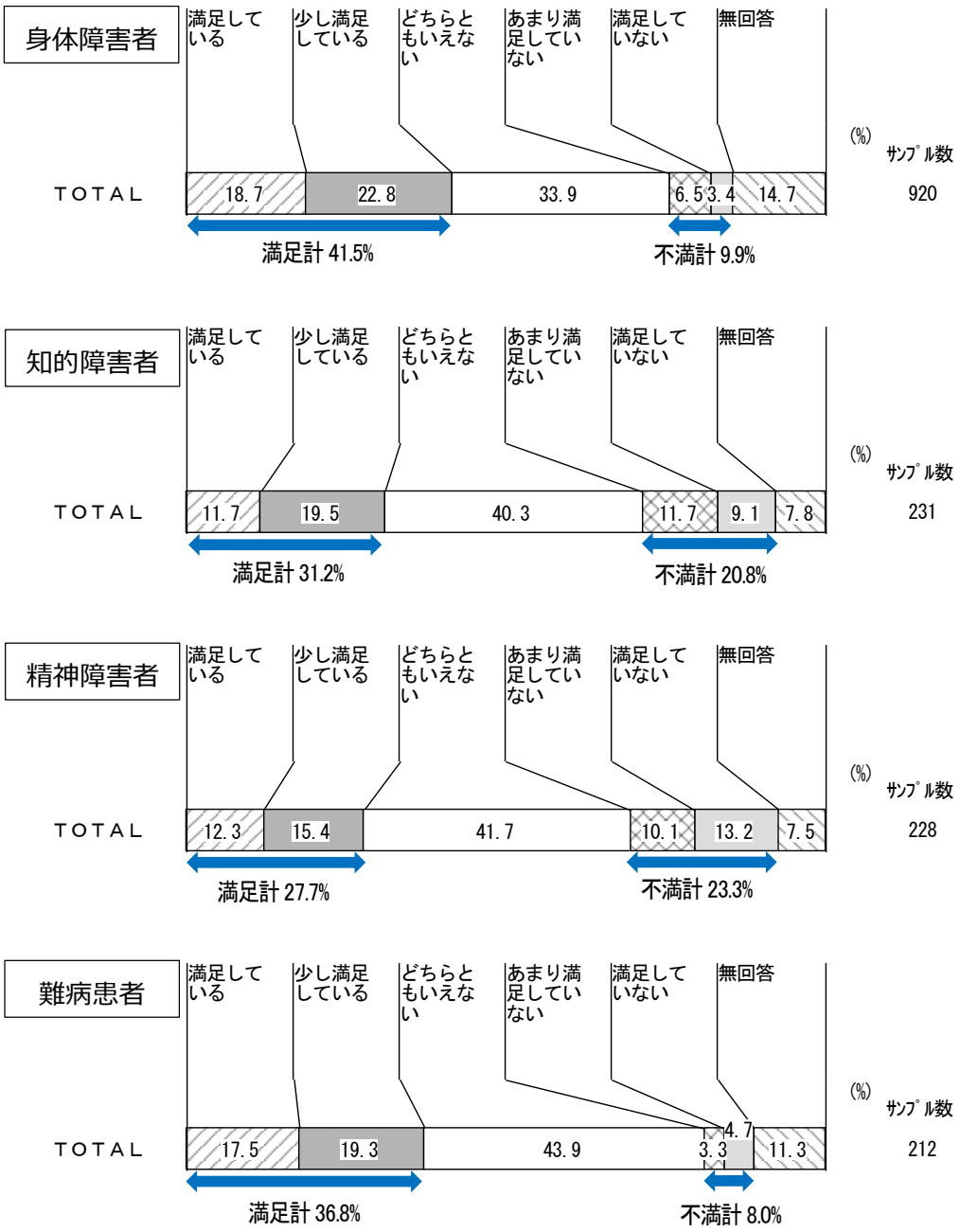
《 パソコン・スマートフォン・携帯電話の利用状況（複数回答）》

身体障害者	n	パソコンを利用して、情報を入手している	スマートフォン等を利用して、情報を入手している	携帯電話を利用して、情報を入手している	電子メールを利用して、情報を入手している	その他	パソコンなどを利用して情報を得ることはない	無回答
TOTAL	920	17.5%	6.3%	4.9%	3.5%	3.7%	52.3%	21.5%
視覚障害	52	25.0%	5.8%	3.8%	5.8%	5.8%	46.2%	23.1%
聴覚障害	59	16.9%	11.9%	5.1%	10.2%	5.1%	45.8%	20.3%
平衡機能障害	2	－	－	－	－	－	100.0%	－
音声・言語機能等小障害	20	20.0%	5.0%	15.0%	－	5.0%	50.0%	20.0%
肢体不自由（上肢、下肢、体幹）	377	18.0%	7.2%	6.9%	3.4%	3.7%	50.7%	21.0%
肢体不自由（脳原性運動機能障害）	55	12.7%	3.6%	－	3.6%	5.5%	60.0%	21.8%
内部障害	261	20.7%	5.0%	3.8%	3.1%	1.5%	52.9%	21.8%
18 歳未満	21	38.1%	19.0%	4.8%	9.5%	4.8%	42.9%	9.5%
18～64 歳	260	36.2%	16.9%	10.4%	6.9%	4.6%	38.5%	9.6%
65 歳以上	632	9.3%	1.6%	2.5%	1.9%	3.2%	58.5%	26.6%
知的障害者	n							
TOTAL	231	10.0%	6.1%	6.1%	3.9%	2.2%	63.2%	16.0%
精神障害者	n							
TOTAL	228	28.1%	14.5%	11.4%	2.6%	3.9%	42.5%	12.3%
難病患者	n							
TOTAL	212	28.3%	10.8%	9.0%	3.3%	2.4%	45.3%	13.2%

※ 年齢・主な障害種類「無回答」は省略

17　福祉サービス全般の満足度

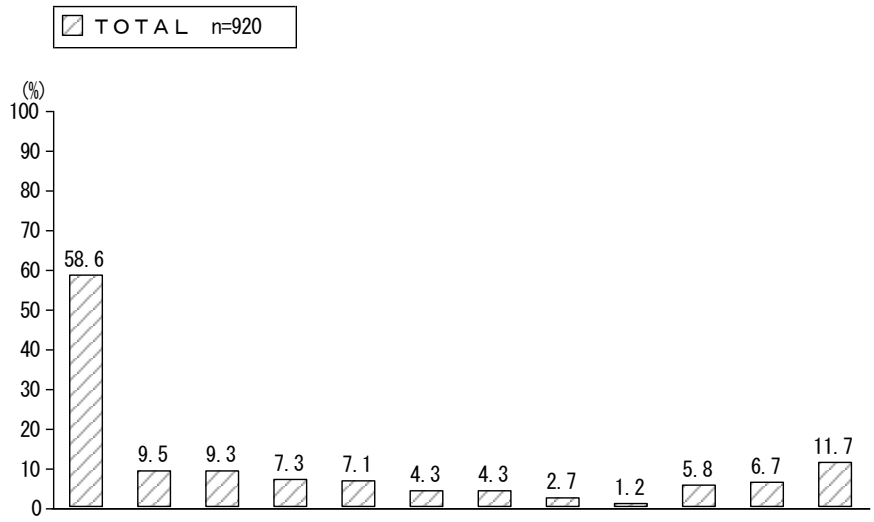
福祉サービス全般について、「満足している」あるいは「少し満足している」と回答した人の割合は、**身体障害者**では41.5%、**知的障害者**では31.2%、**精神障害者**では27.7%、**難病患者**では36.8%である。



18　希望する日中の過ごし方

今後、希望する日中の過ごし方としては、**身体障害者**では、約６割の人が「自宅でのんびり過ごしたい」（58.6%）と回答している。なお、現在の日中の過ごし方別にみると、「自宅にいることが多い」人のうち 74.4%は、今後も「自宅でのんびり過ごしたい」と考えているが、「身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい」と回答した人が 8.7%、「医療機関で、機能訓練などを受けながら過ごしたい」と回答した人が 7.0%みられる。

《 希望する日中の過ごし方（現在の日中の過ごし方別）（複数回答） 》

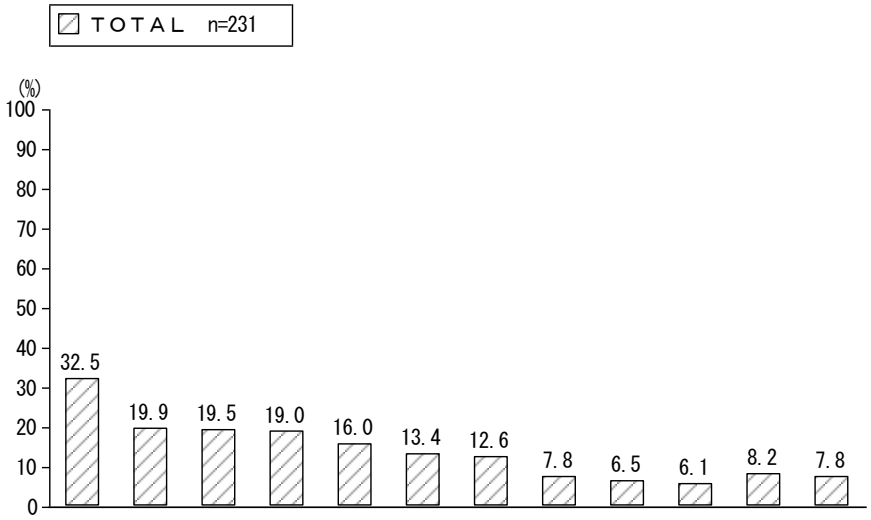


身体障害者

	問２３　日中の過ごし方（複数回答）	n	1 自宅でのんびり過ごしたい	5 身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	6 医療機関で、機能訓練などを受けながら過ごしたい	7 施設で、介護を受けながら、創作的活動などを行いたい	2 一般企業などで働きたい	3 施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい	8 創作活動などを行ったりするところで過ごしたい	9 学校に通いたい	4 職場探しや職場定着のための支援を受けたい	10 その他	11 わからない	12 無回答
0	TOTAL	920	58.6	9.5	9.3	7.3	7.1	4.3	4.3	2.7	1.2	5.8	6.7	11.7
1	幼稚園や保育園、学校などに通っている	21	9.5	33.3	9.5	9.5	42.9	14.3	14.3	52.4	19.0	0.0	9.5	9.5
2	福祉の施設（サービス）に通っている	104	56.7	25.0	24.0	22.1	0.0	6.7	7.7	1.0	0.0	5.8	3.8	10.6
3	病院や施設などで看護・介護を受けている	101	41.6	11.9	25.7	19.8	3.0	3.0	2.0	3.0	3.0	2.0	10.9	11.9
4	働いている	125	46.4	4.0	2.4	2.4	26.4	4.0	4.0	4.0	1.6	9.6	8.0	11.2
5	求職中である	15	26.7	6.7	0.0	0.0	53.3	33.3	0.0	0.0	13.3	6.7	6.7	0.0
6	自宅にいることが多い	472	74.4	8.7	7.0	4.2	2.3	4.0	4.9	1.3	0.8	4.2	4.4	8.7
7	その他	62	45.2	8.1	8.1	8.1	3.2	1.6	9.7	0.0	0.0	17.7	8.1	11.3
8	無回答	89	48.3	3.4	2.2	5.6	1.1	2.2	0.0	0.0	0.0	3.4	11.2	30.3

今後、希望する日中の過ごし方としては、**知的障害者**では、「施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい」と回答した人が32.5%と最も多く、次いで「自宅でのんびり過ごしたい」（19.9%）、「一般企業などで働きたい」（19.5%）と続いている。なお、現在の日中の過ごし方別にみると、「自宅にいることが多い」27 人のうち 13 人（48.1%）は、今後も「自宅でのんびり過ごしたい」と考えているが、「施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい」と回答した人が 22.2%、「施設で介護を受けながら、創作的活動などを行いたい」と回答した人が14.8%みられる。

《 希望する日中の過ごし方（現在の日中の過ごし方別）（複数回答） 》

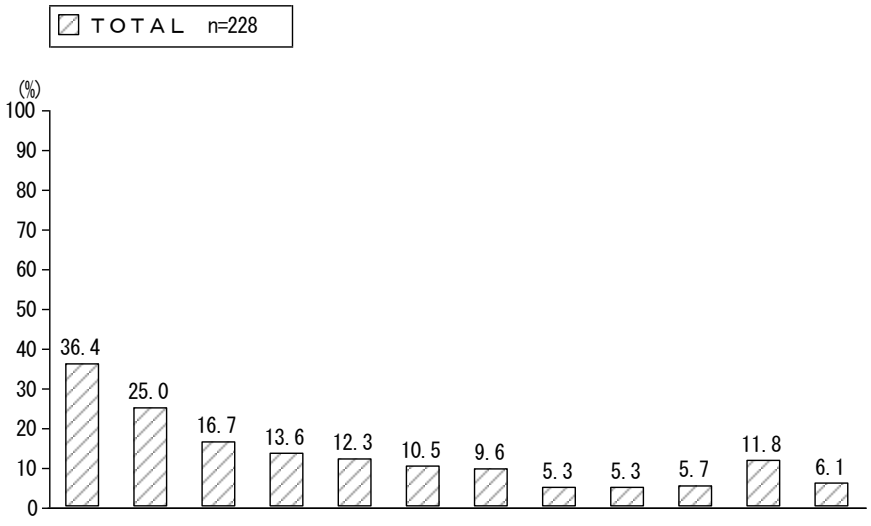


知的障害者

問２２ 日中の過ごし方（複数回答）		n	3 施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい	1 自宅でのんびり過ごしたい	2 一般企業などで働きたい	7 施設で、介護を受けながら、創作的活動などを行いたい	5 身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	4 職場探しや職場定着のための支援を受けたい	8 創作活動などを行ったりするところで過ごしたい	9 学校に通いたい	6 医療機関で、機能訓練などを受けながら過ごしたい	10 その他	11 わからない	12 無回答
0	TOTAL	231	32.5	19.9	19.5	19.0	16.0	13.4	12.6	7.8	6.5	6.1	8.2	7.8
1	幼稚園や保育園、学校などに通っている	60	31.7	10.0	26.7	18.3	30.0	28.3	13.3	23.3	6.7	1.7	6.7	5.0
2	福祉の施設（サービス）に通っている	65	56.9	16.9	9.2	29.2	18.5	16.9	20.0	3.1	7.7	3.1	4.6	3.1
3	病院や施設などで看護・介護を受けている	13	7.7	15.4	0.0	61.5	7.7	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7	7.7	0.0
4	働いている	57	17.5	22.8	33.3	7.0	7.0	3.5	10.5	1.8	1.8	8.8	12.3	14.0
5	求職中である	5	80.0	0.0	80.0	0.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	自宅にいることが多い	27	22.2	48.1	7.4	14.8	3.7	7.4	7.4	7.4	11.1	7.4	14.8	3.7
7	その他	7	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3
8	無回答	8	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	37.5

今後、希望する日中の過ごし方としては、**精神障害者**では、「自宅でのんびり過ごしたい」と考えている人が36.4%と最も多く、次いで「一般企業などで働きたい」（25.0%）、「施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい」（16.7%）と続いている。なお、現在の日中の過ごし方別にみると、「自宅にいることが多い」人の半数は、今後も「自宅でのんびり過ごしたい」（50.0%）と考えているが、「一般企業などで働きたい」と回答した人が22.2%、「身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい」と回答した人が13.9%みられる。

《 希望する日中の過ごし方（現在の日中の過ごし方別）（複数回答） 》



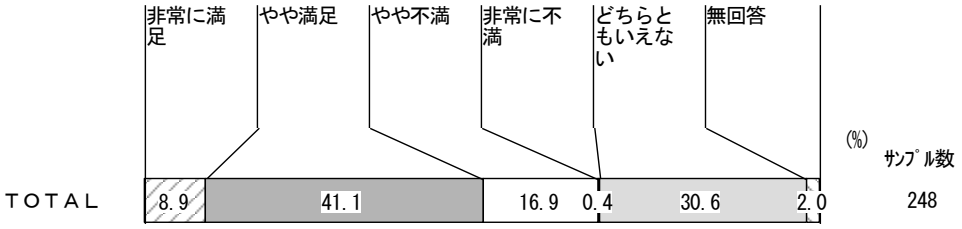
精神障害者

	問２２　日中の過ごし方（複数回答）	n	1 自宅でのんびり過ごしたい	2 一般企業などで働きたい	3 動をしながら過ごしたい施設内で就労したり、生産活	5 めに必要な訓練を受けたい身体機能や生活能力向上のた	4 支援を受けたい職場探しや職場定着のための	8 ところで過ごしたい創作活動などを行ったりする	6 受けながら過ごしたい医療機関で、機能訓練などを	7 創作的活動などを行いたい施設で、介護を受けながら、	9 学校に通いたい	10 その他	11 わからない	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	228	36.4	25.0	16.7	13.6	12.3	10.5	9.6	5.3	5.3	5.7	11.8	6.1
1	幼稚園や保育園、学校などに通っている	8	12.5	50.0	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0
2	福祉の施設（サービス）に通っている	32	37.5	37.5	34.4	21.9	28.1	18.8	15.6	3.1	9.4	3.1	0.0	6.3
3	病院や施設などで看護・介護を受けている	26	19.2	11.5	19.2	15.4	7.7	7.7	30.8	19.2	7.7	3.8	15.4	3.8
4	働いている	32	25.0	37.5	28.1	21.9	12.5	21.9	9.4	6.3	3.1	6.3	15.6	6.3
5	求職中である	16	31.3	81.3	18.8	25.0	31.3	18.8	6.3	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0
6	自宅にいることが多い	108	50.0	22.2	13.0	13.9	10.2	9.3	6.5	0.9	4.6	5.6	10.2	4.6
7	その他	23	30.4	13.0	8.7	8.7	17.4	8.7	4.3	8.7	0.0	30.4	13.0	4.3
8	無回答	11	27.3	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	27.3	36.4

19 施設生活の満足度、施設への要望

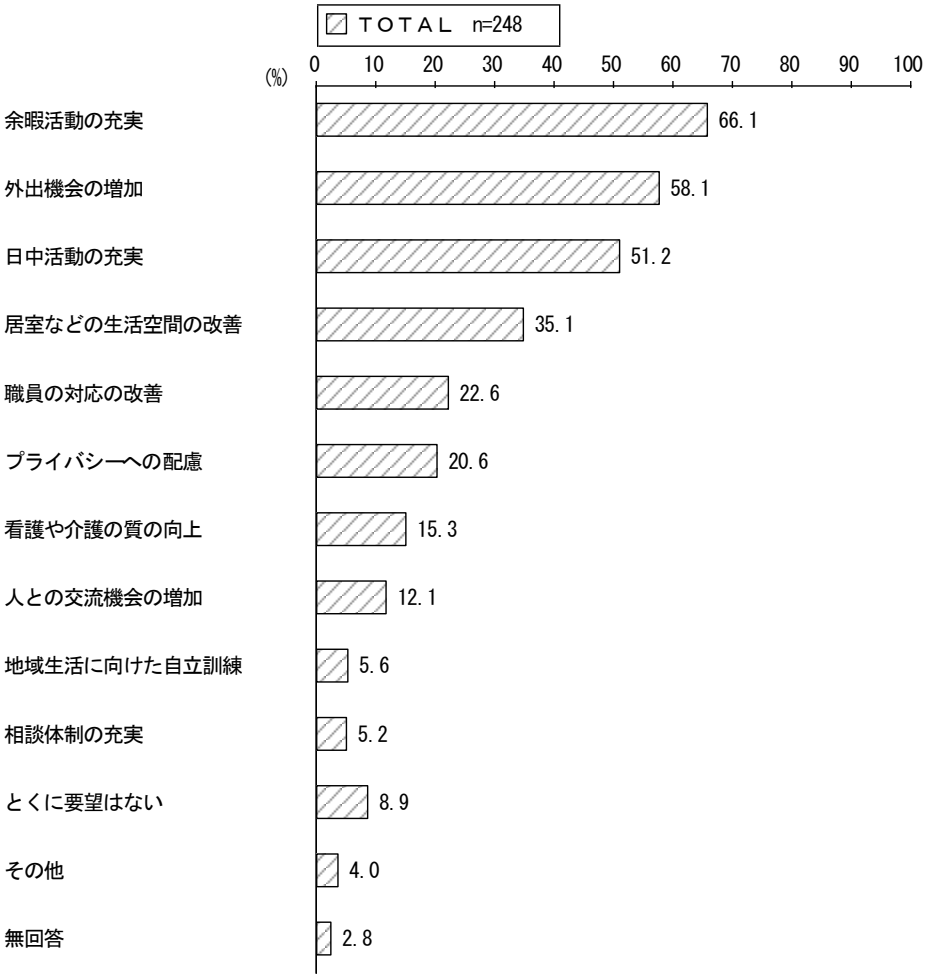
現在、入所している施設の生活に「非常に満足」している人は 8.9%、「やや満足」している人は 41.1%で、合わせると約半数の人は概ね満足していることがわかる。

《 施設生活の満足度 》



入所している施設への要望としては、「余暇活動の充実」をあげる人が 66.1%と最も多く、次いで「外出機会の増加」（58.1%）、「日中活動の充実」（51.2%）と続いている。

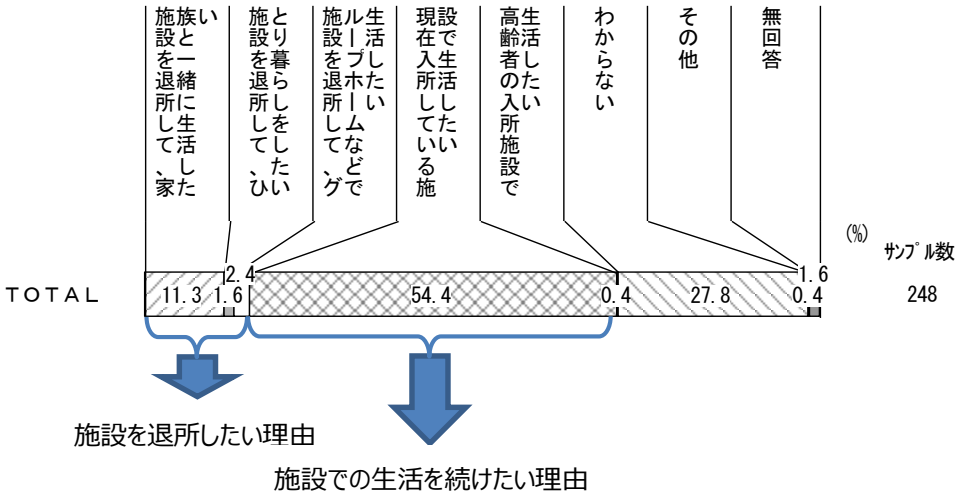
《 施設への要望（複数回答）》



20 施設入所者が将来希望する生活

将来は、「現在入所している施設で生活したい」と考えている人が54.4%と最も多いが、「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」人が６人（2.4%）、「施設を退所して、ひとり暮らしをしたい」人が４人（1.6%）みられる。

《 将来希望する生活 》



施設を退所したいと回答した人にその理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「家族のそばにいたいから」（65.8%）、二番目に多かった理由は「自由な生活をしたいから」（57.9%）である。

《 施設を退所したい理由（複数回答）：上位５項目 》

	n	1位	2位	3位	4位･5位
退所したいと回答した施設入所者	38	家族のそばにいたいから 65.8%	自由な生活をしたいから 57.9%	社会的に自立したいから 23.7%	※3項目が同率のため掲載を省略

現在入所している施設で生活を続けたいと回答した人にその理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「施設にいたほうが安心できるから」（85.9%）、二番目に多かった理由は「施設での生活が自分にあっているから」（57.0%）である。

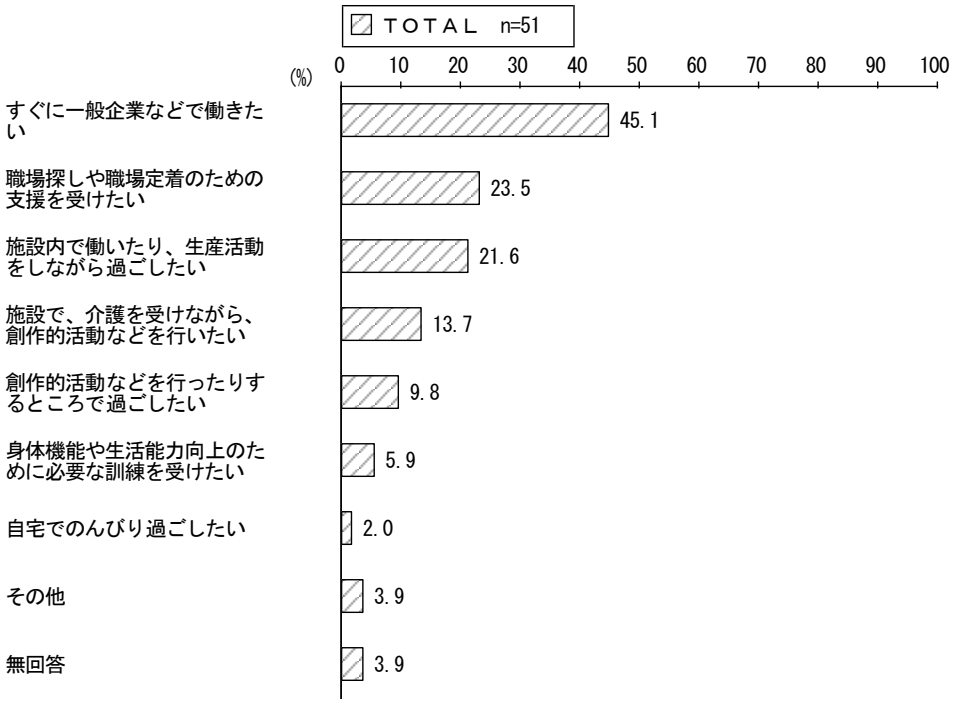
《 施設での生活を続けたい理由（複数回答）：上位５項目 》

	n	1位	2位	3位	4位	5位
現在入所している施設で生活したいと回答した入所者	135	施設にいたほうが安心できるから 85.9%	施設での生活が自分にあっているから 57.0%	施設職員やほかの入所者との関係が良好だから 47.4%	健康面などで不安があるから 40.0%	家族の受入態勢が整っていないから 37.8%

21　特別支援学校高等部３年生が将来希望する生活

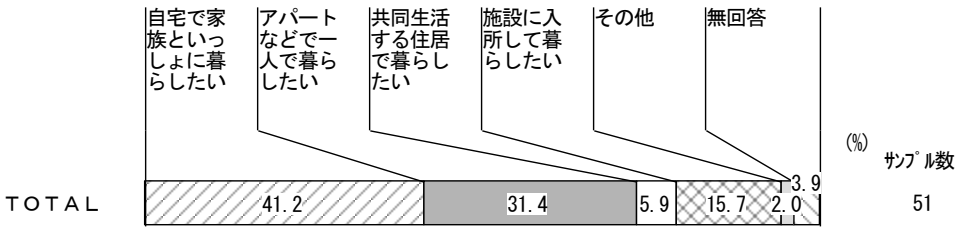
学校卒業後の日中の過ごし方についての希望を尋ねたところ、45.1%の生徒は「すぐに一般企業などで働きたい」と回答している。

《 学校卒業後の日中の過ごし方（複数回答） 》



将来については、41.2%の生徒が「自宅で家族といっしょに暮らしたい」、31.4%の生徒が「アパートなどで一人で暮らしたい」と考えている。また、「施設に入所して暮らしたい」と回答した人が 15.7%みられる。

《 希望する暮らし方 》



22 災害時の周囲への連絡・通報について

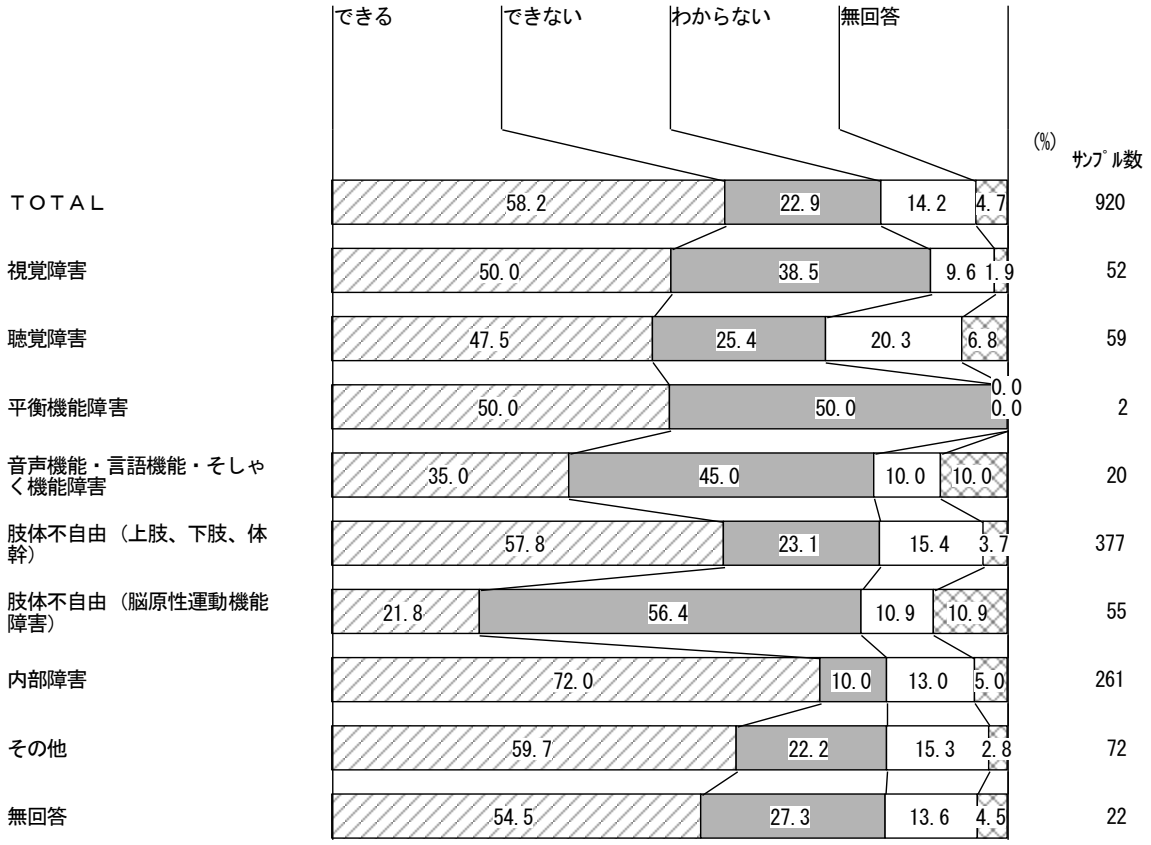
非常時に周囲に知らせることが「できない」と考えている人の割合は、**身体障害者**では 22.9%、**知的障害者**では 45.9%、**精神障害者**では 13.6%、**難病患者**では 10.8%である。

《 災害時の周囲への連絡・通報について 》

	n	できる	できない	わからない	無回答
身体障害者	920	58.2%	22.9%	14.2%	4.7%
知的障害者	231	27.3%	45.9%	22.9%	3.9%
精神障害者	228	57.0%	13.6%	25.0%	4.4%
難病患者	212	75.5%	10.8%	11.8%	1.9%

身体障害者について、主な障害の種類別にみると、肢体不自由（脳原性運動機能障害）の人では、知らせることが「できる」人は約２割（21.8%）で、半数以上が「できない」（56.4%）と回答している。

《 災害時の周囲への連絡・通報について（身体障害の種類別） 》



23　災害時に助けてくれる近隣者の有無

近所に助けてくれる人が「いる」人の割合は、**身体障害者**では 30.4%、**知的障害者**では 15.6%、**精神障害者**では 15.4%、**難病患者**では 29.2%である。

近所とのつきあいの程度別にみると、近所づきあいを積極的に行っているほど、「助けてくれる人がいる」と回答する人の割合が高くなっている。

《 災害時に助けてくれる近隣者の有無 》

	n	いる	いない	わからない	無回答
身体障害者	920	30.4%	24.9%	37.2%	7.5%
知的障害者	231	15.6%	44.2%	35.1%	5.2%
精神障害者	228	15.4%	39.5%	39.5%	5.7%
難病患者	212	29.2%	24.5%	42.5%	3.8%

《 災害時に助けてくれる近隣者の有無（近所とのつきあいの程度別）》

身体障害者	n	いる	いない	わからない	無回答
積極的に行っている	67	65.7%	4.5%	26.9%	3.0%
必要に応じて行っている	285	35.8%	16.5%	39.3%	8.4%
あいさつ程度はしている	380	25.3%	28.9%	41.6%	4.2%
ほとんど行っていない	138	18.8%	47.1%	29.7%	4.3%
知的障害者	**n**	**いる**	**いない**	**わからない**	**無回答**
積極的に行っている	7	42.9%	28.6%	28.6%	－
必要に応じて行っている	29	20.7%	34.5%	41.4%	3.4%
あいさつ程度はしている	124	14.5%	43.5%	37.9%	4.0%
ほとんど行っていない	66	13.6%	51.5%	30.3%	4.5%
精神障害者	**n**	**いる**	**いない**	**わからない**	**無回答**
積極的に行っている	2	－	50.0%	50.0%	－
必要に応じて行っている	20	35.0%	25.0%	35.0%	5.0%
あいさつ程度はしている	130	15.4%	35.4%	43.8%	5.4%
ほとんど行っていない	65	9.2%	53.8%	33.8%	3.1%
難病患者	**n**	**いる**	**いない**	**わからない**	**無回答**
積極的に行っている	19	68.4%	10.5%	21.1%	－
必要に応じて行っている	75	33.3%	18.7%	44.0%	4.0%
あいさつ程度はしている	89	19.1%	28.1%	51.7%	1.1%
ほとんど行っていない	24	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%

24 災害時に必要とする支援

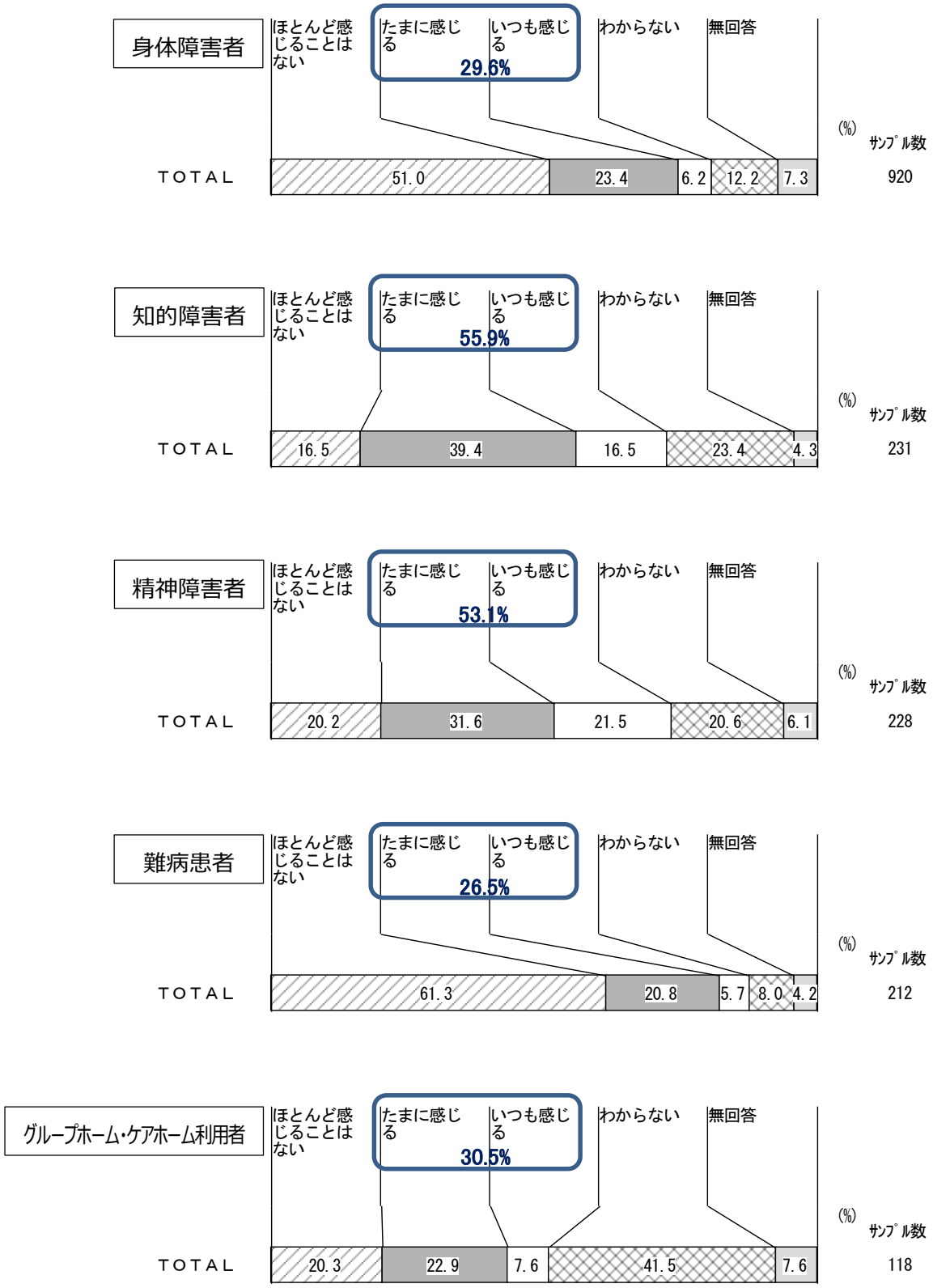
身体障害者、**精神障害者**、**難病患者**では、災害時にあるとよいと思う支援・援助として、「必要な投薬や治療が受けられる」ことをあげる人が最も多い。一方、**知的障害者**では、「避難するのを手助けしてくれる」ことをあげる人が最も多い。

《 災害時に必要とする支援（複数回答）：上位５項目 》

	n	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	920	必要な投薬や治療が受けられる 61.1%	避難所の設備（トイレ等）を充実させる 50.3%	避難するのを手助けしてくれる 46.5%	必要な補装具や日常生活用具を支給してくれる 39.7%	救助や避難時に声かけをしてくれる 38.9%
知的障害者	231	避難するのを手助けしてくれる 61.5%	避難所の設備（トイレ等）を充実させる 58.4%	救助や避難時に声かけをしてくれる 51.5%	必要な投薬や治療が受けられる 48.1%	コミュニケーションがとれるよう手助けしてくれる 45.0%
精神障害者	228	必要な投薬や治療が受けられる 72.4%	被害状況、避難所の場所等の情報を知らせてくれる 46.1%	避難所の設備（トイレ等）を充実させる 45.2%	救助や避難時に声かけをしてくれる 43.0%	避難するのを手助けしてくれる 35.1%
難病患者	212	必要な投薬や治療が受けられる 78.3%	避難所の設備（トイレ等）を充実させる 63.7%	被害状況、避難所の場所等の情報を知らせてくれる 47.6%	必要な補装具や日常生活用具を支給してくれる 45.8%	避難するのを手助けしてくれる 43.4%

25　差別・疎外感を感じること

障害があることによる差別や疎外感を「たまに感じる」あるいは「いつも感じる」と回答した人の割合は、**身体障害者**では 29.6%、**知的障害者**では 55.9%、**精神障害者**では 53.1%、**難病患者**では 26.5%、**グループホーム・ケアホーム利用者**では 30.5%である。



26 あんしんサポートねっとの利用意向

あんしんサポートねっとを活用している人は、いずれの障害においても３％未満だが、「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」と考えている人が、**身体障害者**では 60.5%、**知的障害者**では 81.8%、**精神障害者**では 68.9%、**難病患者**では 81.1%、**グループホーム・ケアホーム利用者**では 65.3%みられる。

《 あんしんサポートねっとの利用意向 》

	n	すでに活用している	今は必要ないが、将来必要となったら活用したい	活用したいとは思わない	無回答
身体障害者	920	1.5%	60.5%	19.3%	18.6%
知的障害者	231	2.2%	81.8%	9.5%	6.5%
精神障害者	228	2.2%	68.9%	19.7%	9.2%
難病患者	212	0.5%	81.1%	10.8%	7.5%
グループホーム・ケアホーム利用者	118	2.5%	65.3%	22.0%	10.2%

27 成年後見制度の利用意向

グループホーム・ケアホーム利用者のうち 6.8%は、成年後見制度を活用している。また、「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」と考えている人が、**身体障害者**では 43.3%、**知的障害者**では 73.6%、**精神障害者**では 56.6%、**難病患者**では 52.4%、**グループホーム・ケアホーム利用者**では 62.7%みられる。

《 成年後見制度の利用意向 》

	n	すでに活用している	今は必要ないが、将来必要となったら活用したい	活用したいとは思わない	無回答
身体障害者	920	1.2%	43.3%	34.1%	21.4%
知的障害者	231	3.0%	73.6%	14.3%	9.1%
精神障害者	228	3.5%	56.6%	30.3%	9.6%
難病患者	212	0.5%	52.4%	37.3%	9.9%
グループホーム・ケアホーム利用者	118	6.8%	62.7%	19.5%	11.0%

28 行政への要望等

市が充実させていくべきこととしては、**身体障害者**と**難病患者**では「在宅福祉サービスの充実」をあげる人が最も多く、**知的障害者**では「地域で生活できる住宅の整備」、**精神障害者**では「経済的な援助の充実」をあげる人がそれぞれ最も多くなっている。

《 障害者施策を進めるにあたって市が充実させていくべきこと（複数回答）：上位３項目》

	n	1位	2位	3位
身体障害者	920	在宅福祉サービスの充実 38.4%	経済的な援助の充実 36.6%	暮らしやすい街づくり 32.7%
知的障害者	231	地域で生活できる住宅の整備 49.8%	経済的な援助の充実 48.9%	入所施設の整備 48.1%
精神障害者	228	経済的な援助の充実 46.9%	相談体制の充実 34.2%	働く機会の充実 33.8%
難病患者	212	在宅福祉サービスの充実 51.9%	経済的な援助の充実 48.6%	在宅の給食サービスの充実 40.1%

川越市障害者支援計画アンケート調査報告書

《概要版》

発行日　　平成２６年３月
発　行　　川越市障害者福祉課
　　川越市元町１丁目３番地１
電　話　　049-224-5785（直通）
ＦＡＸ　　049-225-3033